2014年事業計画書　　部門　**住吉区北地域包括支援センター**　記入者　　松本　佑美

1 2013年度の事業総括

	事業	内容
成果	包括	2次予防事業担当者による、月2回のヨガ体操教室は定例開催を続けられていることが大きな成果。1次予防～3次予防対象者までを含み、講師には圏域内の事業所職員に協力頂くという地域連携を意識した取組みを続けられていることは評価できる。権利擁護や継続的包括的ケアマネジメントでは、行政や他機関との協働が多く、それぞれが職責を意識し、取組みができていたとは思う。こうした取組みはすべて利用者支援に還元されるものであることはぶれていなかったと思う。
	予防	今年度、ケアマネなんじゃらほいを立ち上げ、法人内のケアプランに関わる職員が集まって開催できたこと自体が成果。事務局での総括を行い、よりよいスキルアップの場となるように継続していきたい。課内では、定期的に予防支援業務ミーティングを実施することでケースの大まかな動きや支援のあり方などについて検討を深める事ができた。
課題	包括	総合相談業務の反省点として、地域活動協議会の立ち上げにより、住民組織の動向が大きかったため、地域の住民感情に配慮した結果、活動が少なくなってしまった。今後は、孤立予防の啓発活動や勉強会等を積極的に行う必要がある。各地域連合についてのアプローチについては、連合によって状況は異なる。東粉浜地域については、ミニネットワーク会議に参加しながら、個別ケースについて予防的に情報共有出来ている。一方、住吉連合については、アプローチについて課題が残る。地域活動協議会の地域福祉部会との連携を切り口にアプローチを今後検討する。 権利擁護や継続的包括的ケアマネジメントでは、他機関との協働がとても多く、会議や取組み、事業運営で奔走していた。戦略的に取組み、「コンパクトかつ効果は最大に」を意識して取組みたい。
	予防	個別の支援の中で、個人の力量に任される部分が大きくなりがちで、お互いの動きがわかりにくかったり、協力体制がとりきれなかったりしやすい。予防支援に係る業務や各自が担当する業務の手順などがマニュアル化できていない。

2 2014年度の事業目標

主課題	「防災」「孤立死防止」を切り口とした地域づくりの取組みを行う

項目	内容
全体	地区診断を行い、地域への戦略的な関わりを考える。CSWとの連携、協働のイメージあわせ
品質向上	職員の接遇力の向上。主にOJTを基本とする。
行事・企画の充実	包括圏域の取組み、区レベルの取組みを整理し、効率よく効果がより得られる事業運営
介護・支援内容	予防支援チームではケアマネジメント向上に向けた自主研修会を発展させていく
人材育成	人事異動で職員の入れ替えがあるため、支援体制が維持、向上できるよう努める
広報	防災・孤立死防止を切り口として、包括・ブランチの啓発、周知、出前講座などを展開する

3 月別事業計画

月	事業・行事等	会議	研修計画（内部・外部）
別添参照			